

地元で行う農業体験が農業に対するイメージ形成に与える影響 Effect of agricultural program in local area on the view of local agriculture

○横川華枝¹ 溝口勝¹

YOKOKAWA Hanae MIZOGUCHI Masaru

1 はじめに

農業の現場における将来の担い手確保のため、ふだん農業になじみの少ない人の農業に対する理解を深めるよう、各地で農業体験、都市農村交流等が進んでいる。しかし、農業の担い手として不足しているのは必ずしも農業に従事する人にかぎらない。水路の泥上げや草刈りを始めとする農業生産を支えるあらゆる仕事の担い手が高齢化し維持管理が難しくなっていること、混住化が進む中で農業を続けていくために周辺住民の理解を得る必要があることなどから、これまで以上に非農家を含めた地域に住む人々の応援が必要になっている。

このように地域の農業を応援する人々を増やすためには、農業体験を通して農業に対する理解を深めてもらうことにとどまらず、地域に対する理解も一緒に深めることが必要であると考えられる。とくに、体験者の住むまちで行われる農業体験は、農業に対する理解を深めるとともにわがまちの農業の現状や将来について考えるきっかけになる可能性がある。

そこで、体験者の住む市内、町内の田んぼで農業体験を行っている東京都武蔵村山市、岩手県胆沢郡金ケ崎町の2つの地域について、農業体験のプログラム内容を調べ、地域の中で行われている農業体験の現状把握を試みた。また、体験者の農業へのイメージがどのように形成されているかをアンケート調査によって調べ、

地元で農業体験を行うことがもたらす効果を明らかにすることを試みた。

2 方法

(1) 市内の田んぼで農業体験を行った武蔵村山市の公立小学校9校において、第5学年教員、児童730名を対象に2013年11月～12月にアンケート調査を実施した。

(2) 町内の田んぼで農業体験を行った金ケ崎町の公立小学校3校において、第5、6学年教員、児童を対象に2013年12月にアンケート調査を実施した。

アンケートでは農業体験と関連する学習内容、児童の農業に対する意識について調査した。

3 結果

(1) 農業体験と学習の内容

児童は1年間に田植え、草とり、稲刈り、脱穀の稲作体験(Fig.1)を行った。さらに武蔵村山市の8校、金ケ崎町の1校が、農業体験に関し



Fig. 1 稲作体験の様子
Farming experience on the field

¹ 東京大学大学院農学生命科学研究科 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The Univ. of Tokyo

キーワード：農業観，農業体験，小学校

て学校での学習を行っていた。その内容はテーマを決めた調べ学習、体験を振り返り感想や意見をまとめる学習等であった。Table.1 に調べ学習で設定されたテーマを示した。体験内容に関するものをテーマとする等の制約がある学校もあったが、米作りの手順、歴史、米の品種、病気、米を使った料理等、テーマは基本的に児童の自由な意志によって選択されていた。この中に地域の農業を意識したテーマは含まれていなかった。

Table. 1 調べ学習のテーマ
Theme of research education program

	テーマ
武蔵村山市	日本のお米、外国のお米、米料理、お米の歴史、米作りの1年、コシヒカリとあきたこまちのちがいを、有機農法について、バイオテクノロジー、米の名前の由来 等
金ケ崎町	田植え、稲刈り、米の品種、米の病気について

(2) 体験者の農業に対するイメージ形成

Fig.2 に「農業に対するイメージを考えたとき、何を思い出しながら答えたか」に対する回答を示した。武蔵村山市、金ケ崎町のいずれにおいても、体験を思い出して答える回答が4割以上を占めており、他の要素に比べて強く思い

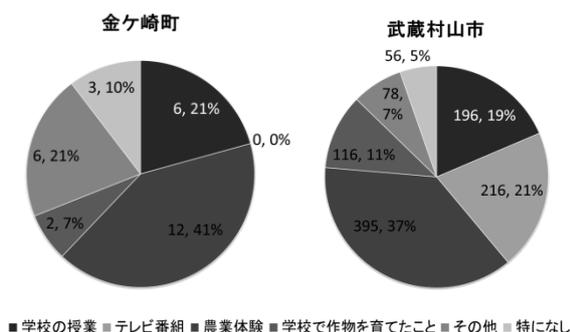


Fig. 2 農業イメージの源
Image source of agriculture

出される傾向にあることがわかった。また、金ケ崎町においては祖父母、両親の農業をイメージの源としている児童がみられた。

4 考察

本研究で調査した2地域においては、体験をした場所や地域を意識した学習プログラムが行われておらず、体験の地域性が明確に意識されてはいないことがわかった。また、児童が選んだテーマの中に地域に着目する事項がなかったことから、児童が何らかの動機付けなしに地域に着目することは難しいものと考えられる。

一方で、田んぼでの体験とそれに合わせて学習したことは、児童たちが農業をイメージする際の想像の源として他の要素よりも強く機能していることが明らかになった。学校のまわりに田んぼがあり、家族が農業に従事している児童が多い金ケ崎町においても同様の傾向がみられたことから、もともと農業が身近なところにある児童にとっても、農業に対する考え方の形成において農業体験がもたらすものは大きいと考えられる。

以上から、農業体験は体験者がもつ農業に対するイメージの形成に大きく関わるため、農業体験を通して体験者に地域の農業に対する理解を深めてもらうためには、その地域性を活かした内容や、地域に着目させる動機付けを意識した取り組みを行っていくことが必要であると考えられる。

5 おわりに

農業体験を通して体験者が地域の農業に対する考えを持ち、理解を深めるためには、地域の農家とのふれあい、地域特有の事情を盛り込むことによって体験のストーリー性を高めることが、プログラムづくりの上で重要なポイントになると考えられる。

謝辞

アンケート調査にあたって、東京都武蔵村山市教育委員会、小学校の皆様及び岩手県胆沢郡金ケ崎町小学校の皆様のご協力をいただきました。ここに謝意を表します。